

To be love～あの日の出来事～

SHUN

・プロローグ

ある年の3月末。
扉を開けてくれた男性に私は頭を下げた。

「ありがとうございました。」

「ああ.....新たに頑張るんだ。」

「はい。」

男性にもう一度頭を下げて私は扉の外にでた。

春の匂い。

私はこの日を迎えた。
まだ満開になっていない桜を見て私は自分の心と一緒に思えた。
どうせ散りゆく運命。
きれいに見えるのは...ほんの数日だけ。

「...帰ろう。」

桜を見て後ろ向きの気持ちになる自分に嫌気がさした。
新しい人生を作っていこう。
私にも前向きな思考があったのは遠い昔。
でもこの日を迎えた以上は進みゆく未来を見据えるしかなかった。

桜並木を背に私は歩き出した。
色々なことがあった。
楽しいこと悲しいこと...本当にいっぱい。
歩いていくにつれ思い出が走馬灯のように蘇る。

なんでこんなことになってしまったのか。

私は自分自身を恨んだ。やり場のない怒りが感情を支配する。

怒りからなのか...ふいに溢れ出る涙が自分を弱くした。

「っ...ごめんなさい...ごめんなさい.....」

そんな涙をこぼす私の背中から私を呼ぶ声が聞こえた。

振り返ると...

「なんで...なんでここにいるの...」

「...ずっと一緒にいるって約束しただろ？」

「ほんとうに...？また一緒にいてくれるの...？」

「...おんなじこと何度も言わせるなよ。」

全ての始まりはここから。そしてこれまでもこれからも。